

第1回吹田市中学校給食在り方検討会議 議事録

令和2年10月29日
午後3時30分開会
さんくす3番館4階大会議室

出席委員

北 詰 恵 一 委 員
福 井 士 郎 委 員
小 林 太 郎 委 員
山 崎 さゆり 委 員
山 本 恵美子 委 員

巽 美 奈 子 委 員
尾 関 裕 美 委 員
須 藤 涉 委 員
松永ジュリア・マリナ 委 員

出席説明員

山下栄治学校教育部長
伊東昌宏保健給食室主幹
村田祥一保健給食室主査

橋本健一保健給食室長
杉村知佐子保健給食室主査

記録者

佐藤美由紀保健給食室係員

第1回吹田市中学校給食在り方検討会議 議事録

午後3時30分 開会

伊東保健給食室主幹

皆様こんにちは。本日は、お忙しいところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。定刻が参りましたので、第1回吹田市中学校給食在り方検討会議を開催させていただきます。

本日、資料の持参をお願いしていましたが、もしお忘れの方がおられましたら、お申し出ください。

本日、資料1の委員名簿と資料8の一部を差替え資料とし、また、追加資料でカラーの献立表と色紙の縦長の献立表を置いております。ご確認ください。

それでは初めに、開会にあたりまして、山下学校教育部長よりご挨拶申し上げます。

山下学校教育部長

皆様、こんにちは。学校教育部長の山下でございます。吹田市中学校給食在り方検討会議を設置させていただきましたところ、委員の皆様におかれましては、ご多忙の中、委員を引き受けてくださりまして、また、本日もご出席くださりまして誠にありがとうございます。

本市の中学校給食は、選択制でのデリバリー方式で行われており、平成21年1月にモデル実施という形で導入され、3年間の移行拡大期間を経て、全18校での実施となっております。開始から12年目となっております。この中学校給食の今後の在り方について、皆様に意見をいただきたいということで、この検討会を設置させていただいております。

これまでの経緯につきましては、また、後程担当よりご説明させていただきますけれども、この中学校給食に関しましては、安心・安全、子供たちの健康、食育あるいは地産地消などといった様々なテーマがございます。

また、事務局からも説明があると思っておりますけれども、現在の中学校給食については、課題もございます。そうしたことも含みまして、本日、ご出席いただいております委員の皆様には、それぞれ専門の知識等おありかと思っておりますので、是非、この検討会で忌憚のないご意見を頂戴して、実りあるものにしていただければと思っております。

本日も含め、3回にわたる会議になりますが、お付き合いくださいますことをお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

どうぞ、よろしく願いいたします。

伊東保健給食室主幹

それでは、これで学校教育部長の方は、他の公務の都合上、退席させていただきます。

	<p>それでは、議事に移らせていただきますが、議事録を作成いたします関係で、録音させていただきます。また、事務局の職員は、挨拶以外着席したままで発言をさせていただきますので、あらかじめ、ご了承くださいませようをお願いいたします。</p> <p>会議の議事進行は、座長が行うことになっており、本日は座長が選出されるまでは、橋本保健給食室長に進めさせていただきます。</p>
橋本保健給食室長	<p>保健給食室長橋本でございます。</p> <p>それでは、座長が選ばれるまでの間、議事を進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>まず、本来であれば、委嘱状につきまして、お一人お一人にお渡しするのが本意ではございますけれども、時間の関係上、委嘱状を皆様のお手元に置かせていただいております。ご確認くださいませようお願い申し上げます。</p> <p>初めに私の方から、委員の皆様のご紹介をさせていただきたいと思っております。</p> <p>まず、学識経験者で、関西大学環境都市工学部都市システム工学科教授の北詰委員でございます。</p>
北 詰 委 員	<p>よろしくお願いいたします。</p>
橋本保健給食室長	<p>続きまして、同じく学識経験者で千里金蘭大学生活科学部食物栄養学科専任講師の巽委員でございます。</p>
巽 委 員	<p>巽でございます。よろしくお願いいたします。</p>
橋本保健給食室長	<p>続きまして、同じく学識経験者、大和大学教育学部教育学科教授福井委員でございます。</p>
福 井 委 員	<p>福井でございます。よろしくお願いいたします。</p>
橋本保健給食室長	<p>続きまして、吹田市立竹見台中学校長の小林委員でございます。</p>
小 林 委 員	<p>小林でございます。よろしくお願いいたします。</p>
橋本保健給食室長	<p>続きまして、吹田市立佐井寺中学校教頭の須藤委員でございます。</p>
須 藤 委 員	<p>須藤でございます。よろしくお願いいたします。</p>
橋本保健給食室長	<p>続きまして、吹田市立古江台中学校栄養教諭の尾関委員でございます。</p>
尾 関 委 員	<p>よろしくお願いいたします。</p>
橋本保健給食室長	<p>続きまして、吹田市立竹見台中学校栄養教諭の山崎委員でございます。</p>
山 崎 委 員	<p>よろしくお願いいたします。</p>
橋本保健給食室長	<p>続きまして、学校教育関係者として、市PTA協議会の松永委員でございます。</p>
松 永 委 員	<p>よろしくお願いいたします。</p>
橋本保健給食室長	<p>続きまして、同じく学校教育関係者として、市PTA協議会の山本</p>

	委員でございます。
山本委員	山本です。よろしくお願ひいたします。
橋本保健給食室長	続きまして事務局の紹介をさせていただきます。 まず、吹田市教育委員会保健給食室主幹の伊東でございます。
伊東保健給食室主幹	伊東でございます。よろしくお願ひいたします。
橋本保健給食室長	続きまして、同じく保健給食室主査で栄養士の杉村でございます。
杉村保健給食室主査	杉村でございます。よろしくお願ひいたします。
橋本保健給食室長	続きまして、同じく保健給食室主査の村田でございます。
村田保健給食室主査	村田でございます。よろしくお願ひいたします。
橋本保健給食室長	続きまして、同じく保健給食室係員の佐藤でございます。
佐藤保健給食室係員	佐藤でございます。よろしくお願ひいたします
橋本保健給食室長	最後に私、保健給食室長の橋本でございます。よろしくお願ひいたしま す。
伊東保健給食室主幹	それでは、事務局の方から、本日の傍聴者について報告を申し上げます。 本日の傍聴席の設置可能数は、5席で4名の方が傍聴されております。
橋本保健給食室長	座長・副座長の選出をさせていただきたいと思ひます。 座長・副座長の選出につきましては、当会議要領第3条によりまして、 委員の互選により選出することになっておりますが、座長につきましてど なたか意見はございませんでしょうか。
小林委員	座長ですが、これまで吹田市のいろんな審議会などで参加経験されてお り、その中で滞りなく、議事の進行も進めていただいたと聞いております 関西大学の北詰委員が適任ではないかと考えます。
橋本保健給食室長	小林委員から、座長に北詰委員をとひいう意見がございましたが、ご異議 や他の意見はございませんでしょうか。
全委員	異議なし。
橋本保健給食室長	異議なしということでございますので、座長は北詰委員に決定したいと 思ひます。よろしくお願ひいたします。 続きまして、副座長の選出をお願ひしたいと思ひますが、何かご意見は ございませんでしょうか。
小林委員	副座長は、座長の補佐をする大切な役目と考えますので、座長の方に一 任されては、いかがでしょうか。
橋本保健給食室長	小林委員から副座長の選出は、北詰委員に一任してはどうかとの意見が ございましたが、いかがでしょうか。ご異議や他の意見はございませんで しょうか。
全委員	異議なし。
橋本保健給食室長	異議なしということでございますので、副座長は北詰座長に一任をいた

北 詰 座 長

します。副座長の選出につきましてよろしくお願ひいたします。

先程選出をいただきました北詰でございます。この委員会では、やはり給食を取り扱いますので、食育でありますとか、栄養とかそうした方面にご弁識の高い方にお願ひしたいと思っております。従いまして、異委員に副座長をお願ひしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

橋本保健給食室長

異委員というご意見がございましたが、異議はございませんでしょうか。

全 委 員

異議なし。

橋本保健給食室長

それでは、副座長は異委員にお願ひしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

北詰委員、異委員、座長、副座長席へお移りいただきますようお願いいたします。

それでは、北詰座長、進行の方をよろしくお願ひいたします。

北 詰 座 長

北詰でございます。

私の専門はどちらかという、建設とか土木とか都市計画に携わる部分でございます。給食センターにつきましては、どのような形で建設し、運営していくかという形でいくつかの市で委員長をやらせていただいておりますので、そうした観点から貢献させていただくとともに、ここにお集まりの先生方は、給食及び学校教育に詳しい方々ばかりでございますので、皆様方のご意見ご支援を受けながら、この役目を果たしていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

それでは、ただ今から、吹田市中学校給食の在り方検討会議を進めていくこととします。

本日の議題の1「中学校給食の概要とこれまでの経緯について」、事務局よりご説明をお願ひしたいと思います。

伊東保健給食室主幹

まず、資料3「中学校給食の概要」をご覧ください。

現在の本市の中学校給食は、給食を希望する日を選んで1か月ごとに申し込む選択制で、家庭から持参するお弁当や購買で購入したパン等から何を食べるかを、本人や保護者が選ぶことができるという制度になっております。

生徒・保護者が利用しやすいように1日単位での申し込みができるようインターネットを利用した予約システムを構築しており、このシステムがマークシートを利用し、システムは前月の20日まで、マークシートは前月の15日までに当月分の申し込みを行います。また、当月の後半、16日以降については、システムでの予約のみになりますが、当月の5日まで追加予約ができるようになっています。

給食の調理につきましては、調理等委託しております委託事業者の調理場で調理を行い、主食であるごはんと副食であるおかずを盛り付けたランチボックス各1個と、大阪府学校給食会の供給物資となります紙パックの牛乳が、各中学校の配膳室に届けられ、配膳室に据え付けている温蔵庫、保冷庫、牛乳保冷庫により給食開始まで安全に保管します。なお、ごはんについては、「大盛」と「標準」を申し込み時に選択していただけるようにしています。

そして、昼休みの時間になりましたら事前に申し込みをした生徒が個々に配膳室に来まして、事前に配布しました食券と引き換えに給食を受け取ります。食べ終わった食器や牛乳パックは、生徒が配膳室に返却します。

この一連の配膳業務は委託業者から派遣された配膳員が、原則として午前11時から午後2時までの間、この業務に当たります。

また、食材の選定や調理を行う上での衛生管理については、学校給食として求められる厳しい衛生管理基準等に基づき、安心・安全に十分に配慮しながら調理等を行っており、また、常に調理委託業者と連携を密にしながら、安全な給食を提供できるよう努めているところです。

中学校の先生方は、ご存じかと思いますが、ここで、実際の給食を見ていただきたいと思います。

本日、追加で配布しました献立表をご覧ください。

カラーの献立表は、各校の配膳室に掲示するほか、各クラスに1枚ずつ配布しており、見た目を鮮やかにし、生徒に興味を持ってもらえるように、イラストや色使いなど毎月工夫しています。

緑色の紙の献立表は、生徒一人一人に1枚ずつ配布しており、表上部に献立、下部にはアレルギー情報を、裏面には詳しい使用食材の一覧表も掲載しています。

それでは、本日の給食について栄養士からご説明します。

本日の献立は、「ごはん」「牛乳」「お好み揚げ」「高野豆腐の甘酢あん」「ほうれん草のお浸し」「梅干し」となります。

こちらの「ごはん」が標準サイズの230gになります。

牛乳はパックのもので、一人一個でございまして、給食に必ず付くものとなっております。成長期に必要な一日のカルシウム量の半分以上を給食から摂るように、学校給食摂取基準で定められており、重要な役割を果たしています。

続いて、副食です。仕切りのあるランチボックスに4品から5品提供させていただいているものとなっております。

こちらの「お好み揚げ」は小学校給食でも提供されている献立で、ち

杉村保健給食室主査

くわ・桜エビ・キャベツ・あおさのりといったお好み焼きの材料を合わせたものを揚げて、手作りのソースをかけております。

続いて、「高野豆腐の甘酢あん」は、一口サイズの高野豆腐を戻して、片栗粉をつけてあらかじめ素揚げしています。これを豚肉と野菜を炒めてだし汁と調味料で味を含ませたものと合わせて、仕上げたものになります。高野豆腐の煮物に比べて、高野豆腐がもちもちとした食感になります。

「ほうれん草のお浸し」は、調味料を入れただし汁に下茹でした、ほうれん草と人参を入れて火を通し、仕上げたものになります。家庭で作るお浸しのように、茹でた野菜に醤油をかけて作る作り方とは異なります。

「梅干し」は既製品になりますが、化学調味料を使用していないなど給食用として材料もシンプルなものを選んでいきます。

以上でございます。

給食の内容を知っていただきたいということで本日の給食メニューを出させていただきます。

資料の方に戻りまして、資料4「中学校給食の経過について」をご覧ください。

学校給食法では、義務教育学校での給食実施は、学校設置者の努力義務となっているため、他府県とは異なり、大阪府内の多くの各市町村では、小学校のみで学校給食を実施し、中学校では給食を実施せずに、昼食には家庭から弁当を持参するのが主流となっており、本市でも同様でございました。

しかしながら、安全や栄養バランスに配慮した中学校給食を望む声が高くなったことなどを受け、平成16年度から本格的な検討に取り組むため、同年6月に吹田市小・中学校給食検討会議を設置しました。

この検討会議では、有識者や学校関係者、他の幅広い方のご意見をお聞かせいただき、その議論の結果を吹田市の小・中学校給食の在り方について、提言として、同年12月に取りまとめていただきました。

この提言の中で、今後の中学校給食の方向性について、自校調理方式の小学校と同じ学校給食方式については、調理場の建設敷地や建設費用から困難であると思われるとして、食堂方式とデリバリー方式が望ましいとし、また、持参の弁当が持つ親子のふれあいや、愛情を大切にしたい教育的効果は今後も続けていくことが望ましいので、持参の弁当にするか、給食を利用するかを生徒自身が自由に選択できる選択制とすることがより良い方策と思われるとして、生徒が家庭からの弁当持参と給食メニューから

選択できる食堂方式又はデリバリー方式との併用が、現状の財政状況から見て、また、生徒個々の希望や栄養バランスへの配慮がされた方法と結論付けておられます。

この提言を受けて、本市では、各実施方式の経費や他市の実施状況を比較検討し、財政的負担や実施までに必要な期間等を考慮した結果、現在の給食方式を採用しております。

平成20年度からモデル事業として、3校で開始し、その後、順次、施設整備等を行って、実施校を拡大し、平成24年2月から全校実施となっております。

その後、生徒・保護者のニーズを把握するため、定期的にアンケートを実施したり、利用申し込みしやすいようにインターネットの申し込み期限を月2回に増やしたり、卒業までの継続一括予約、ご飯量の大盛り対応など、利便性の向上に努めてきましたが、生徒の給食利用の度合いの目安として、その日の利用食数を、その日に利用が可能な生徒数で割ったパーセンテージを、喫食率としていますが、全校の平均では、年次的に下がっている傾向にあり、学校ごとでの格差も大きくなっています。

また、教育委員会内部や総合教育会議で、今後の給食について検討や協議題として議論してきましたが、本市においては、児童・生徒数の増加傾向が続いており、現行の給食実施方法を変更するには、学校の敷地内における給食施設の確保や財政的な負担の課題などもあり、その解決策を見出せず、給食の実施方法は現状のままです。

しかしながら、特に子供達に対する食育の重要性が増してきている中、共働き世代の増加に伴う子供達を巡る環境の変化、保護者の全員喫食を求めるニーズ、後程、お話しします大阪府下での給食の実施状況の変化などから、現状の実施方式を検討していく時期になっているため、今回、このような会議体を設置させていただきました。

ありがとうございます。ただ今、説明がありましたように、平成16年度に吹田市小・中学校給食検討会議を開催し、その結果、平成20年度から中学校給食を選択式で導入し、その後、利便性向上のため、いろいろな取り組みを行っているとのことでした。

喫食率という言葉が出てまいりましたが、こちらは残念ながら低迷しており、学校における課題はあるものの子供達を取り巻く状況から現在の給食方式を見直すということが、必要だという認識でご説明いただいたように思います。

今までご説明いただいた内容につきまして、もし何かご発言、ご意見、ご質問等ありましたら、課題問わず、自由にご質問等いただきたいと思います。

北 詰 座 長

A 委 員

ますが、いかかでしょうか。

年ごとの喫食率の件で喫食率の減少傾向にあるというところで、原因については何が考えられますか。

伊東保健給食室主幹

喫食率の低下につきましては、各校における子供達の交友関係の影響が大きいのではと考えております。また、配膳室と教室の距離が遠いと、取りに行く手間がかかるというのも原因の一つかと考えております。

こちらにつきましては、PTAの試食会などを通じまして、学校にも協力いただきながら保護者の方に良さを知っていただくようにしてはいるのですが、なかなか結果に結びつかない状況が続いています。

また、後程アンケートの結果などを用いまして、子供達が給食を利用しないことにつきましてご説明させてもらいたいと思います。

北 詰 座 長

他にご質問等はございませんでしょうか。

A 委 員

話の方向性がよく見えないのですけれども、吹田市としては喫食率を上げて今の状態を良くしていこうと、つまりは、喫食率を上げていこうとしているのか、それとも、別の方策を考えようとしているのか、方向が分からないのですが、これはどうなのでしょう。

伊東保健給食室主幹

こちらについては次の議題で、この検討会議の役割をお話しさせていただこうと思いますが、現在の選択制と全員喫食というような給食の方法がある中で、どちらの方向性が今の吹田市の中学生にとって良い方向かというのを議論していただきたいと考えています。

喫食率が低下しているから選択制の喫食率を上げていきたいという形ではなく、その実施方式も含めて議論いただきたいと考えている状況です。

まず、全員喫食が良いか、今の選択制が良いのかということを経験し、それを踏まえた上で、全員喫食ということであればどういう方式にしていけば良いのかとか、選択制のままであれば、現状の方式で良いか、喫食率をどうしていくべきなのかなどをこの会議体で議論をしていただければと考えております。

A 委 員

この資料には、いくつかの市が全員喫食の方向で検討していると書いてあるのですが、そこはどのような理由ですか。

伊東保健給食室主幹

資料7の他市の状況について示させていただいていますが、現在デリバリー方式で選択制である、茨木市や堺市が中学生の食育を考えた時に、やっぱり選択制では限界があり、そこをしっかりとっていくためには、全員喫食にしていくことが必要だということで方向転換されていると聞いております。

A 委 員

吹田市としては、まだ方向性は模索中だということによろしいでしょう

か。

伊東保健給食室主幹 そのとおりです。ただ、その中でもある程度、他市の状況もありますし、今回の議論も踏まえまして、教育委員会で一定の方向性をとりまとめたいと考えております。

B 委 員 喫食率について、各学校に格差があるということなのですが、その点についてもう少し詳しくお聞かせいただきたい。

伊東保健給食室主幹 資料6をご覧ください。こちらは、今年度の喫食率の状況という形で記載させていただいていますが、令和元年度の例で言いますと、最大が古江台中学校で、喫食率が「34.6%」、喫食率が低いところを見ますと、第二中学校とか佐井寺中学校が「5.9%」と、約6倍くらい差がついている状況になっております。

B 委 員 これについての原因は、どういう形になっていきますか。

伊東保健給食室主幹 子供達のアンケート結果などを見ますと、周囲がみんな弁当を持ってきていれば、やっぱりお弁当がいいなということで、給食を申し込まずに、お弁当にしているという形があります。また、たくさんの生徒が給食を申し込んでいたら、給食の申し込みが増える傾向が続いています。そして、やっぱり喫食率の低い学校を見ますと、教室と配膳室の距離が遠いということで、取りに行くと、教室で食べる、そしてまた返しに行くと、教室に戻ると二往復するのが面倒だという生徒さんが、アンケート結果から見受けられます。

B 委 員 もう少し、内実的なお話をお聞かせいただければと思いますので、栄養教諭の先生方で何か、お気付きの点がございましたら、地域性とか世帯差が喫食率に関連しているのかなど、お聞かせいただきたいです。

C 委 員 私が今いる学校は喫食率が高く、8年前には喫食率の低い学校にいたのですが、やっぱり低い学校にいた時は、「やっぱり遠い。」「棟が違って、2階や3階から降りてきて、取ってまた戻るのが遠い。」と言っている子供達が結構多かったのと、給食はやはり必要な栄養素として、野菜が多いこと、また、その食べる時間が、昼休みは、やっぱり短いので、自分に合った量を家から持ってきて食べる子供達が多かったと思います。

実際、お弁当を持ってきているのを見ても、量の少ない子供達が多いような気がします。

北 詰 座 長 ちょっと座長の権限で整理させていただきます。

まず、委員と事務局のやりとりで気になったことがあるのですが、この検討会議の最後に期待されているアウトプットと、それから、今後の吹田市の中学校の給食がどうなるかを決定する場所と、その関係がよく分からないですけれども、今後の吹田市の中学校の給食の在り方を決める

伊東保健給食室主幹
北 詰 座 長

のが、教育委員会ですよ。

そのとおり教育委員会になります。

では、教育委員会に、この検討会議の結果の何を持っていけばいいのですかということが、まずひとつはつきりしません。例えば、方向性を決めるということであれば、今後の吹田市の中学校の給食の在り方は以下の5点であると箇条書きを出すことが、この検討会議の最後のアウトプットで、それを出せば、教育委員会の方で我々の検討会議のことを尊重しながら、しかしながら教育委員会の権限で決めるという理解でよろしいですか。

伊東保健給食室主幹
北 詰 座 長

座長のおっしゃるとおりで考えております。

よろしいですか。5点でも3点でも、10点でも要するに言いたいことを、自由に議論しても良いということですよ。

どの方向に話を進めたらいいのか。

決して吹田市の方で内々に思惑がある訳ではなく、かなり自由に議論しても良いということですよ。

伊東保健給食室主幹
北 詰 座 長

そのとおりです。

だから、場合によっては教育委員会がお困りになるようなとんでもない方向性をこの検討会議で出しても構わないですよという意味ですが、よろしいでしょうか。

伊東保健給食室主幹
北 詰 座 長

構いません。

私がマネジメントすると大体こうしたことになりますが、よろしいですか。その意図でよろしいですか。

伊東保健給食室主幹

実際、施策を教育委員会で考える時には現実的な課題とかも踏まえての判断になると考えておりますので、ここで本当に自由に議論していただいた結果を尊重させていただき、教育委員会として必要な結論を出していくように考えております。

北 詰 座 長

多分これを何回かさせていただきますけれども、最後の資料のイメージは吹田市の今後の給食はこうあるべきである、以下何点か理由はこうであるという紙が1枚か2枚か3枚か知らないけど、我々は、これを目指すということですね。

伊東保健給食室主幹
北 詰 座 長

そのとおりです。

それでは2点目、現場にすごく詳しい委員の先生方がいらっしゃる状況と、こちらに出席されている先生方はそれなりに専門的な知識をお持ちですが、現場は皆様ほど詳しくはないという状態ですので、今、学校給食の状況とその要因という質問を実はお二人の先生がされたのですが、それについてのお答えについてはちょっと満足いくお答えをいただけなかった

と理解しております。

これからアンケートの結果など、詳細を伺うこととなりますが、また、それらを踏まえて、その要因について我々も理解できることもあるかなと思いますし、逆に現場に詳しい先生方については、そんなことは知っていますとの話になるかもしれませんが、逆に申し上げますと、例えば、全国的な傾向でありますとか、今後の中学校給食のあるべき論、こちらは我々の方は、申し上げることはあると思いますので、それらをお互いすり合わせていきながら、最後のアウトプットを決めていきたいと考えておりますので、そういう整理でよろしいでしょうか。

全 委 員
北 詰 座 長

異議なし。

質疑の中でその次の資料との関係をお答えいただいた部分もありますので、もしこのテーマでの質疑が無いと言うことであれば、次のテーマの議題にいかせていただきまして、今の議題と合わせながら議論していただければということによろしいでしょうか。

それでは、このテーマはいったん仮止めということにさせていただいて、次のテーマ、まずは、検討会議の役割とスケジュールについて、すみませんが、よろしく願いいたします。

伊東保健給食室主幹

資料5の「検討会議の役割と開催スケジュールについて」ご説明させていただきます。

検討会議の役割については、先程座長がお話されたように、この検討会議で、こうあるべきだと言うことをまとめていただきたく、こちらとしましては、今の選択制の制度が良いか、全員喫食が良いかというところについての意見をいただきながら、その中で次の実施方式としてはどのような方式が良いのかという、流れでスケジュール案を作っています。

スケジュールとしましては、全3回を予定しておりまして、本日は現状を知っていただくことを目的に進めさせていただきまして、次に今までの経過を踏まえた議論と実施方式に繋がっていき、3回目でそれまでの議論をまとめていただければと考えております。

先程、申し上げましたように教育委員会でこちらの意見で出たことを尊重し、次の方針に生かしていきたいと考えております。以上です。

北 詰 座 長

ありがとうございます。

簡単な質問をお受けしますが、議題3まで行ってからの方がまとまると思います、何か簡単な確認のような質問はありませんでしょうか。

それでは、仮止めに戻りますけれども、今、役割とスケジュールについてお話をいただきましたので、気になることがあればと思いますがよろしいでしょうか。

では、事務局が予定していた段取りとは違うとは思いますが、議論の内容からすると議題3まで一気にいってしまって、合わせて1、2、3とした方が良いと思いますので、議題3をお願いしてもよろしいでしょうか。

ここでは、現状の給食の実施状況としまして、現在の吹田市の状況、他市の状況、アンケート結果の状況についてご説明させていただきます。

まず、資料6です。こちらは、令和2年度今年度の中学校給食の喫食率の状況になります。今年度の喫食率の状況と過去3年間の月ごとの喫食率を表した表になっております。

また、先程喫食率が低下傾向にあると申し上げましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症による影響を受けている家庭への支援策の一つとして、中学校給食費の半額を公費負担しています。

その影響で、例年より各中学校の喫食率は上昇しておりますが、傾向としましては、交友関係から給食申し込み者が多いクラスは、喫食率が高く保つことは出来ますが、少ないクラスでは更に喫食率が下がるという傾向が見られます。

結果的に、喫食率が「20%」から「30%」程度と高い学校と、「10%」を切る低い学校との二極化しているという状況になります。

また、アンケート結果について、後程詳しくご説明させていただきますが、多くは家庭からのお弁当を希望しており、教室と配膳室の二往復が面倒だからというのを考えて、給食を申し込まない生徒が多い傾向にあります。次に資料7「他市の状況について」をご覧ください。

本市で、中学校給食が始まった平成21年度以前府内の各市町村で中学校給食を実施していた団体は、本市を含め10団体で大阪府は、全国でワースト1でした。

その後、平成23年度からの5年間、大阪府が、大阪の教育力の向上に繋げることを目的に、中学校給食導入促進事業補助金を創設し、市町村への財政支援を行ったこともあり、令和元年度9月までで残りの33団体も給食を実施し、現在は、全43団体で実施されています。その内容は、全員喫食が32団体、選択制が11団体となっております。

また、給食の実施方式では、まず、各学校内に給食調理場を整備して調理を行う自校調理方式を採用しているのは11団体で、大阪市を除くと昭和30年代など従前から実施している市町村や中学校は1校だけという規模の小さい市町村が、多く採用しています。

富田林市のみ選択制を採用しており、その喫食率は、令和元年度で「51.7%」と聞いております。

次に調理場のある学校で調理した給食を調理施設のない学校に配送する親子調理方式を採用しているのは、高槻市、島本町、大阪市の3団体となります。大阪は、先ほどの自校調理方式とこの親子方式を併用しており、その組み合わせを学校調理方式として、令和元年1学期末に移行しております。

次に、給食センター等の共同調理場を設置して調理し、各学校に配送するセンター方式を採用している市町村が13団体です。ほとんどが、小学校給食を給食センター方式で実施している市町村になります。

選択制を実施している団体の昨年度の喫食率は、河内長野市が「5.3%」、枚方市が「33.5%」と聞いております。

最後に、民間事業者の調理場で調理して学校へ配送するデリバリー方式を採用している市町村で18団体です。

この方式には、調理場の建設用地や建設費用が必要でないため、導入経費が他と比べて少ないという利点があります。府内では、本市が最初にこの方式を採用しており、その後、主に、中・大規模な市が採用しています。

選択制を実施している団体の昨年度の喫食率は、守口市が「20%」、八尾市・羽曳野市・堺市・豊中市が「7～8%」台、茨木市・摂津市が「5%」台と聞いております。

なお、選択制を実施しています茨木市・堺市については、全員喫食のセンター方式での移行を予定していると伺っています。

最後に、私の方から資料8「令和元年度アンケート結果」のまとめについて、ご説明します。

中学校給食については、平成26年度、平成29年度、令和元年度とアンケートを実施しており、令和元年度のアンケート結果と過去の結果との対比でご説明させていただきます。

まず、令和元年度の給食の利用状況ですが、現在「利用している」・「以前利用していた」生徒の割合が「36.2%」であり、平成26年度が「40.4%」、平成29年度「36.3%」と減少傾向が進み、「利用したことがない生徒」の割合が増加傾向にあり、「利用する生徒」と「利用していない生徒」の二極化がより進んでいる状況になっております。

そして、利用する生徒については、利用頻度を見ますと、「ほとんど毎日」と、「週2から3回以上」で7割以上の生徒が月の半分、10食程度を利用していることとなります。利用理由は、生徒は「家人からの勧め」、「弁当作りの負担軽減」の割合が多く、保護者は「弁当作りの負担軽減」の割合が最も高くなっております。

次に給食を利用しない理由や給食を良いと思わない理由を見ますと、生

生徒は「家からの弁当が良い」保護者が「子供が弁当を希望するから」が利用しない理由の一番になっており、生徒が弁当を希望している声は、過去から変わらない状況になっています。

生徒が弁当を希望するのは、1番目が「自分に合った量」、2番目が「好きなおかずが入っている」になっており、この2つが弁当を希望している大きな要因だと考えます。

他の、給食を利用しない理由に戻りますと、生徒が「給食を取りに行くのが面倒」と感じていること、保護者では「急な申し込みキャンセルができない」「申し込みを手間」と感じているのが今の給食制度が抱える課題と考えられます。

なお、過去「おかずが冷たい」とする回答割合が生徒で60%以上あったのが今回の令和元年度では少し形式を変えて、「温かいおかずがない」では、「36.3%」と減少傾向でしたし、「おいしくない」も同じく減少傾向が見られました。

その他の意見で、給食は美味しくないとの噂・評判で、食わず嫌いでいるところが見受けられます。

中学校での昼食はどのような形式が良いかについてですが、今までは生徒の6割以上が「家からの弁当」を選んでいましたが、今回は、「今と同じ給食と弁当などを選べるのが良い」を選んでいきます。

また、保護者も「全員が同じ給食を食べるのが良い」が1番になっておりますが、割合が6割程度と前回より1割以上減少しており、「今と同じ給食と弁当などを選べるのが良い」が「33.5%」と以前より1割以上増えています。

この結果から生徒は、弁当を望んでいる声はありますが、弁当を用意できない場合の給食の有効性を認めているのではないかと感じます。

また、同じく保護者について「全員が同じ給食を食べるのが良い」割合が減っている理由も現状の課題がある中で、全員喫食へ移行していくのを難しく感じている保護者が増えている感じもありますが、引続き全員喫食を望む声は高いと感じております。以上になります。

ありがとうございます。

わりと強引に1、2、3と議題を進めた感じにはなりますけれども、大体、吹田市の中学校給食の導入後の状況やアンケート結果の状況、これらを踏まえて少し、在り方について検討したいと思います。

テーマについては、特に制限なくご発言いただければと思いますが、あまり発言がなければ順にご発言いただく形を取ってまいろうと思います。

私の子供は、3年生から給食を始めまして、実際の親としての立場とし

北 詰 座 長

D 委 員

て、議題に出てくる理由とかは納得できるのですが、まず、給食を始めるにあたって、入学式の時に手続きの案内があるが、その時に「手続きしてくださいね」とその場で言われます。その場では、手続きに必要な情報がないので、その場は持ち帰るが、面倒くさくなって登録しない場合になる方が多いと思います。一度申し込みをして、番号をいただいてとの流れに一度たどり着けば、意外と簡単だけれども、最初の手続きが面倒な親が多いと思います。

もう一つは、小学校では温かいものを給食で食べている子供にとっていきなり、ごはんは温かいけど、おかずがいきなり冷たくなるお弁当方式に少し抵抗が出てきます。冷たいし、おいしくないしという変な噂がたってきて、頼む前からそういうことを聞いてしまえば、親としては、じゃあお弁当を持たせようとする。

実際何故、給食を頼もうかと思ったのは、試食会があって、PTAの役員をしていたこともあり、そこで栄養価が高いことを知り、おかずが冷たい理由も食中毒を防ぐためと理解すれば、そこまでおかずが冷たいことに抵抗を感じなくなった。

中学生の多い荷物にお弁当を毎日持たせるよりも、週に何度か給食を注文して、荷物を少しでも減らしてあげるのも良いのではとの考え方になってきました。

他の保護者に中学校給食のイメージを聞くと、大体、資料にある内容でした。アレルギー対応がしっかりしていないとの意見が何件かありました。私の子供の学校は配膳室が近く、給食を頼んでいる生徒の少ないところですが、配膳室の往復が面倒くさいというのはどうかなと思いました。

以上です。

北 詰 座 長

非常に貴重なご意見ありがとうございました。

この意見に対するご意見ありますでしょうか。

E 委 員

お弁当は、家族に作ってもらう安心感があります。私の子供の学校は教室から配膳室が遠く、次の時間が体育とかの場合は、着替える時間もあり、遅れると先生に怒られるので、給食を食べません。

給食は全体的に茶色いイメージで、冷たいし、小学校との連続性がなく、不安で中学校給食の説明を詳しくして欲しいと思います。

また、子供達が不安を感じるので、なかなか給食を注文しようという考えに至らない状況です。

北 詰 座 長

小学校から中学校にあがるにつれて、教育上丁寧にやるのが良いのか悪いのかの議論はあると思います。

F 委 員

今、小学校から中学校にあがる時の不安とお話がありましたが、本

北 詰 座 長
F 委 員

校は小中一貫教育で、年間15回、金曜日に小学6年生が中学校に登校してきて、一日過ごすという取り組みを行っています。小学6年生のうちから中学校給食を全員ではありませんが食べているので、今のお話を聞いていて、もしかしたら少し慣れていることが高い喫食率に繋がっているのではないかと思います。

ただ、どこの学校でも出来る訳ではないが、おっしゃる通り、不安の中でいきなり行うのは抵抗があるかもしれません。

小中一貫をやっているのは、吹田市でどのくらいあるのですか。

一応小中一貫をやっているのは全てで行っているが、特別な対応として行っているのは竹見台中学校だけです。

北 詰 座 長
G 委 員

ありがとうございます。他にもしあれば、順に行きましょう。

資料6の中で喫食率が低いことが出ていましたので、少し状況の報告をしたいと思います。

先程、E委員が言われとおり、本校は配膳室が一階にあって、1年生の教室が5階にあるので4時間目が体育になると、子供達はダッシュします。教員としては危ないので注意します。そして、配膳室に行ったら行列ができています。それを見た生徒が給食を注文するかというと、ちょっと難しいかなと思います。本校の喫食率が低い原因が続く理由ではないかと思っています。また、各年度の経年変化があれば今後の参考になると思うので見てみたいです。

北 詰 座 長

例えば委員から要望のあったデータで、次回の会議までにご用意していただくことは可能ですか。

伊東保健給食室主幹

可能です。

各学校ごとのデータは、取っており、喫食率が伸びている学校もあれば、逆に減ってきている学校もありますので、また、次回以降にデータとしてお示しさせていただきたいと思います。

北 詰 座 長

このデータの要因は、増えているか、減っているかというデータだけではなくて、その要因も含めたということの内容になりますので、可能な限りでよろしく願いいたします。

A 委 員

質問になりますが、喫食率を上げるだけなのであれば、このアンケート結果であったり、発言された方の意見を元に解決していけば、喫食率が改善されていくのは、大体分かると思うのですが、問題は例えばアレルギーがある子供が多いので、完全に全員同じ食事という訳にはいかないと思うのですね。

そして、全員喫食の市町村がありますが、これもアレルギーの生徒を抱えているところは多分、特別な対応をされていると思います。

伊東保健給食室主幹

方向性としましては、このアンケートでどれも同じようなことを言っていると思いますが、例えば、配膳室に関しては、一か所ではなく各階に設置するなど、あるいは小中学校の連携については、少し慣れさせる期間をとるなどの対処をとってもいいのではないだろうか。あるいは、保護者にそのような体験の時期を与えても良いのではないだろうか。但し、アレルギーに関しては別のファクターを考えなければならないと思います。

そして、あまり詳しくないので教えていただきたいのですが、今まで選択制を実施していた市町村が全員喫食に変更するところがありますよね、それはどういう理由で変更されているのでしょうか。

堺市の中学校は平成28年11月から選択制給食を実施してきました。

中学生個々の置かれた環境にかかわらず、栄養バランスの摂れた食事を摂取することは成長期における中学生の心身の健全な発達に資することはいうまでもありません。また、義務教育段階における食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって、健全な心と、体を培い、豊かな人間性を育んでいく基礎となるものです。

これらのことは、学校教育においても子供達の生活や学習の基盤としての食に関する指導の充実が必要とされ、学校給食の教育的意義を改めて見直すことが求められていると言えます。このような観点を踏まえ、全員喫食制給食へ移行することとし、その円滑な実施に向けて取り組むとしております。

茨木市の方でも基本的な考え方としまして、食は子供達の心身など成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と体を培い、豊かな人間性を育んでいく基礎となるものです。学校における食育は子供達が食に関する正しい知識を身につけ自らの食生活を考え、望ましい食生活を実践できることを目指して取り組まれており、これらを効果的に進めるため、全員給食による完全給食を実現します。

以上がそれぞれのホームページで上がっている資料の一部を読み上げたものです。

A 委 員

そうしましたらね、今選択制を実施している市町村は全く違った観点の実施を考慮した訳ですね。

伊東保健給食室主幹

導入した時にはそのような状況だと思います。

大阪府下では、ここ5年6年の間に開始された市町村になりますので、その当時の段階での判断をされ、選択制の導入をされたと、その中で状況の変化に応じて、茨木市、堺市のように変えていっている状況になります。

A 委 員

修正としては、全員喫食の方向に向かって、例えば、理念までも明白に打ち出されたのでは、反論しようがないですね。もう話の方向としまして

はね、全員喫食の方向に向けてやるのにはどうしたら良いのかという具体的な話になっていく訳ですね。

伊東保健給食室主幹 各委員には、その辺りの状況も踏まえて、いろいろと議論していただきたいと思います。

北 詰 座 長 多分、30、40分くらいでその話を聞きたかったと思います。本当にそれで良かったのかと確認を取りたかったものです。

B 委 員 アンケートの調査等の資料でたくさんご用意いただいたと思いますが、私が一番気になったのは、お弁当を選択されている中でのデータしかないなので、実際に全員喫食である小学校の保護者のデータなども照らし合わせる必要性も出てくるのかなとは思いました。

もう一つは、アンケート結果の11ページ、中学校での給食はどのような形式が良いのかというところで、生徒も保護者も家からの弁当が良いと言っている意見が、実際の自宅でお弁当の用意をしている数よりも少ないですよね、この辺の整合性がどのように説明できるのかというところがもう少し明らかになってくれば、全面的に給食を全員給食で実施するというところに結びついてくるのではないかなと感じます。

北 詰 座 長 おっしゃるとおりですね、これは、クロス集計できないのですか。時間があればできると思いますが、エクセルなどのデータはお持ちでしょうか。

伊東保健給食室主幹 あります。

北 詰 座 長 それなら、できるはずです。小学校のアンケートはどうでしょうか。

杉村保健給食室主査 小学校の給食に関わっておりまして、今アンケートというお話があったのですが、正直、私の方で、小学校全36校の食に関するアンケートを取ったという記憶はありません。

但し、試食会という形を保護者の方に毎年度行っており、これは希望される方のみで、全員では無いのですが、食事が終わりましたらアンケートという形でご意見をいただいております。その中にはアレルギーをお持ちの家庭であれば、配慮が助かりますとのお声をいただいたりとか、子供達が毎日おいしく食べているので自宅でも作って欲しいとか、そうした内容のお声が多いと感じております。

北 詰 座 長 そもそも生徒と親のニーズをそのまま受け取れば良いという話もあると思いますが、よくご自身及び、ご自身の子供の栄養の摂り方について十分にお考えになられ、それに行動されているご自宅から出てくるお弁当、これはオーケーだと思います。

残念ながら全中学生及び、全中学生の親が、適切な昼食を提供するとは限らない。もっとストレートに言えば本当はもっと食べないといけないの

に、少ない、好きなものばかり食べて栄養が偏ってしまう方、その他いろいろあると思いますが、それをアンケートの結果を踏まえて、そのニーズに合うように解決していく方向だけだと、そうした問題をそのまま残したまま、中学校給食が進んでしまいます。

堺や茨木のように、先程お話があったとおり、教育の一環と考えるということであれば、場合によっては中学生ご自身や、ご家庭のご不満があっても、これが中学校の給食としてあるべき姿であり、これは教育の一環です。多少ご不満があっても従ってくださいということであれば、喫食率も高くしないとイケないし、場合によっては全員喫食が必要だと思います。その辺りのバランスですね。

アレルギーのように一般的な給食の提供によってはそれぞれ細かく丁寧に対応することに困難な場合、ご家庭のご事情に応じてお弁当を持ってきていただくということはオーケーだと思います。

そこらの話は置いて、先程言いました、好きなものを好きなだけ食べて、それが実は食事として問題があるから食の一環として食の教育を提供する。ご不満があるかもしれませんが、これに従ってください。こうした方向でいくのであれば、今議論している方向に多分なると思います。

ご議論いろいろいただきまして、多分、現場でそもそも給食の本筋と違うような課題が一杯ありましたよね。予約が面倒だとか、場所が遠いだとか、それらは給食の本質とは違うところで、現場ですごく課題はお持ちだと思いますけど、解決の方向性として出せるものだと思うので、まず一つ課題としてあげます。これらはどんどんどんどん直すものということを持っておく必要があります。そして、給食本体の部分については食育というものがキーワードになって、あるべき栄養の姿、あるべき食べ方の姿、こういったものがまず、議論され、それに繋がっていくような方向性をここで出していくというのが、今日皆様からのご議論のもう一つの正解かなと思います。いかがでしょう。

そうしますと、この会議の後でも結構ですので、次回の議論に必要な情報、あまり無茶なことを言うと、事務局困るかもしれませんが、もし、希望の情報がありましたら、この席又は、事務局の方にご提示いただき、それをご用意いただいた形で2回目を行いたいと思います。

今の所、議題1、2、3について整理等何かございますか。

では、時間の関係もございますので、議題4に入らせていただきます。また、議題1、2、3につきましても、ご質問あれば後程伺いますので、とりあえず議題4をよろしく願います。

では、議題4につきまして、資料9「現状(選択制)・全員喫食の比較

について」をご覧ください。

こちらの表は、現在の選択制と全員喫食を実施した場合の比較を事務局で整理したものになります。ご覧のように10項目ございます。

現在の選択制は、給食の他に、ご家庭からのお弁当の持参や購買でのパンの購入など様々な選択肢があります。

ご家庭から持参するお弁当は、個々の嗜好や量に合わせたものになり、残菜が発生することはありませんが、一方では、課題としまして、ご家庭の負担や夏場などの温度管理が大変で衛生面に不安があるといったことが上げられます。

購買で購入するパンについては、当日に注文が可能であること、選択肢がたくさんあるといった利便性が評価されており、ご家庭からのお弁当持参を補完する制度として有効であると捉えておりますが、一方で、コストがかかることや栄養バランスの面で不安があるといったことが課題として上げられます。

選択制の給食の場合は、「栄養バランスが確保されていること」「持参する負担が無く荷物が少なくなる」などの良い点がありますが、こちらも課題としては、「給食を取りに行くこと」「申し込みの手続きの手間」「量の調節やアレルギー対応ができないこと」などがあげられます。

また、「食育」の面では、全員喫食の場合は、給食を生きた教材として、給食を介した教科学習に繋げ易く考えると考えております。

このような内容を、項目に分けてお示ししております。

以上でございます。

北 詰 座 長

ありがとうございます。ただ今の説明について、全員喫食という方向性が具体的に出てきていますけれども何かご質問等ございますでしょうか。

B 委 員

食育の面ですけれども、ここでは難しいという風に書かれていますが、不可能でないということと、食育、他の教科との連携の中で、進めていくことであって、実際に給食が実施されないと、食育はなかなか難しいということではないと思いますよね。それは今の時点でも中学校では食育は推進されているということですよ。

杉村保健給食室主査

給食があれば、より一層幅が広がると考えております。

B 委 員

分かりました。今の給食の献立表などを見たのですけれども、こうしたものを配布する中での現状の食育は難しいですかね。どうですか。

この配布されている資料の中に、少しでも情報とか付けるだけで食育に繋がると思います。今、現状的にはどうなのかということをお聞きしたいです。

伊東保健給食室主幹 食育だよりなども、栄養教諭に作成してもらって、配布したりとかしている状況であります。

B 委 員 その食育だよりは、お弁当の生徒だけに配られているという訳ではないのですか。

伊東保健給食室主幹 という訳ではないです。

給食を食材としての食育が選択制であれば、選んだ子だけになるという形で考えていたのですけれども、それが全員喫食であれば、全員が同じ物を食べるので、同じ食材を使つての食育が進むという形で考えている状況です。

北 詰 座 長 よろしいでしょうか。

B 委 員 はい。ありがとうございます。

E 委 員 中学校の家庭科で、栄養チェックとかそういうのを前提にして、授業を行うことは可能なのでしょうか。

例えば、家庭のカレーの箱を持って来たりとか、家庭で扱うものの表記をみて、家庭科の授業をできるとかなんですけれども、意外と子供はそんなに頭の中で連携できていないところがあつて、逆に目に見えてこれを使って、プラス家庭科の授業をこれですとかどうなのかなと思ひまして、それこそ食育ではないのかと思ひます。

伊東保健給食室主幹 各教科において、今、食育というのは推進してもらっている状況なのですが、そこで給食との連携というのはあまり取れていない状況があります。そこは、また、課題としまして、食育担当の指導主事も保健給食室にいますので、学校とも連携しながらしていきたいと思ひますが、現状でこれができているとお示しできる状態ではありません。

E 委 員 その状況でないというのはどのようなことですか。

伊東保健給食室主幹 連携がうまく取れているという形では無いということです。

E 委 員 今まで何故、そういう方向に行かなかつたのかというのが理解できません。今、私の家では、三番目の子供が中学生で、結構長く、中学生を見てきて、何故6年、9年変わらないのか、不思議で仕方ありません。

こうして見ると、以前から全く同じ意見が出ているのではないですか。29年、昨年アンケートと似たような意見ばかりが何年も何年も続いているのが不思議で仕方ありません。

伊東保健給食室主幹 当時は中々課題の解決策というのが、見つからなかつたというのは、あります。

E 委 員 その時の一番の課題は、金銭面ですか。

伊東保健給食室主幹 吹田の中学校というのは、生徒数が増えているという実態がありまして、給食の何かを変えようとした場合に、先程にもありましたが、配膳室

を各階に作るとか、近くにするとかした場合に、そのスペースを確保するのが困難であったという物理的な課題と財政的にもお金がかかるというのもあり、そういうものが進まなかったというのがあります。

その中でいろいろな意見も聞いて、今のシステムの申込の方法など利便性を考えて、現状の2回に変えたりとか、PTAの試食会とか、協力してもらい、給食のことを知ってもらうことをしてきました。

ある中学校では、PTAの試食会を通じて、一年生全員に食べてもらったりもして、できるだけ、その良さを知ってもらおうとしたのですが、中々そこは喫食率には繋がっていない状況です

食育については、食育担当のものがいないので、また次回以降お話できるようにはしておきたいと思います。

E 委 員

今回のこの会議をして進めていこうとしていることは、吹田市は何年以内に何かを実行しようと思っているのですか。

伊東保健給食室主幹

それについては、まだ何年以内になどは目処がついていない状況ですので、ただ方向性としてこのままの状態が良いのか、給食の形態を変える方が良いということであれば、そちらの方向性を考えていきたい状況です。

E 委 員

3回も会議して、方向性を考えたとしても、そのままズルズルと何年も続く可能性は高いということですね。

伊東保健給食室主幹

現時点では、平成20年度に選択制を導入した状況を踏まえて、どれが良いかという議論を頂いて、その結果、教育委員会としては実現に向け、努力していくということを考えております。

もしそこで、先程もありましたけれども、全員喫食の方向なども、この検討会議で検討していただきたいと思っております。

北 詰 座 長

今のお話を受けて、また出しゃばって申し訳ないですが、当然吹田市の、学校給食分も、市全体が実施している行政評価とか事務事業評価の対象になっておりますよね。

伊東保健給食室主幹

そのとおりです。

北 詰 座 長

行政評価というのがありまして、何年までに何という事業をやります。例えば、何々の目標率を何パーセントに3年後に実施しますだとか、そういう仕組みが吹田市にもあり、全国の市町村がやらなければならないですが、それは言わば、そういう政策を経験して、いろいろやらなければならないということです。

そこに至るまでが中々決まっていこない。ですから、例えば、この検討会議でも、たぶん、受け止める事務局の方はやばいと思うかもしれませんが、例えば、何年までに何それをするという目標を設定して、それに向かって、半年や1年ごとにチェックをするような方向を進めるべきだという

結論になります。

そうすると、もしかするとズルズルいかず、一步進むかもしれません。全てについてうまく進むということは、私も申し上げられないですけども、少なくともステップバイステップで物事が進んでいく管理はできるかもしれないと思います。

言われると事務局は、ちょっと困るかもしれませんが、すみません。

それぐらいのことは言わせていただきたいということです。

伊東保健給食室主幹
F 委 員

いいえ、ありがとうございます。

すみません。調べて欲しいことがあるのですけれども、資料9の8番の教職員の負担についてですが、全員喫食の際の給食時間の指導について書いておりますけれども、教職員の休憩時間は、昼45分で実際は、動いたりする訳でもございますが、取るという形を定められております。

ここで指導が入ってきた場合に、他市の場合、全員喫食している市町村では休憩時間どのように取っておられるか、あるいは小学校はどうしておられるのか、そういったことを次回教えていただきたいです。

伊東保健給食室主幹
北 詰 座 長

分かりました。

ありがとうございます。

では、ちょっとお伺いしたかったのは、食育とか全員喫食といった時に中学校の現場で教員の皆様方って、例えば、負担が増えるとか、あるいはそういう食育の教育のメニューを持っていないのでどう指導したらいいのかというのは起こり得るのか、大丈夫なのかということです。

F 委 員
北 詰 座 長
橋本保健給食室長

それは起こり得ます。

そうですか。その辺は、また次回ご発言していただきたいと思います。

今の件で、全員喫食を実施しているところや、変えた学校に聞いてみますと、時間割を変えとかそういう形をやっておられます。

負担はやっぱりかなりかかるみたいですよ。

北 詰 座 長

是非、その辺りを整理していただいて、ご負担があるにもかかわらず、やらなければならないということであれば、どのような方法があるなどの議論をしたいので、是非おっしゃられた情報などを整理して次回持ってきていただけたらと思います。

伊東保健給食室主幹
北 詰 座 長

分かりました。

ちょっと予定の時間を過ぎておりますが、やらなければならない議論をしております。

また、今回初回でございますので、先程申し上げましたように、要求すべきデータはちゃんと要求させていただいて、ご用意いただいたもので、効率的にやるべき議論ができるようなご準備をお願いしたいなと思いま

す。

そうしましたら、この件については終わりたいと思いますが、先程、申し上げましたとおり、いくつかの議題は、一括でまとめてやってしまいましたので、議題1からの議題全体を通して何かご質問ありましたら、お願いします。よろしいですか。

それでは、最後の6の連絡事項お願いいたします。

伊東保健給食室主幹

連絡事項としまして、次回の日程の提案があります。

事務局と致しまして、今回は12月17日木曜日、12月18日金曜日、12月20日火曜日で時間は15時30分から、場所は同じく、こちらの会議室での開催を考えております。皆様のご都合をお聞かせいただければありがたいのですが、どのような感じでしょうか。

北詰座長

ちょっと、その日は厳しいな。これは全員参加が原則ですか。

伊東保健給食室主幹

いいえ、原則ではありません。

北詰座長

定足率みたいなものはありますか。

伊東保健給食室主幹

ありませんが、ある程度の参加人数は確保したいところです。

それぞれの分野の方が全員休むとなると開催が難しくなります。

そうしましたら、お時間もありますし、また、座長と副座長と相談しながら日程の方決めたいと思います。いかがでしょうか。

北詰座長

すみません。この場で決めようとしたのですが、お時間等もありますし、どうやらちょっと複雑そうなので、改めて事務局から後日問い合わせがあるということがございます。では、その調整をよろしくをお願いします。

大体、今日議論すべきことはしたのかと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、本日のまとめについて、事務局にお願いしたいと思いますのでよろしくをお願いいたします。

伊東保健給食室主幹

本日いただきました意見を元に、また、資料の方を作りまして、説明させていただきたいと思います。また、本日資料10まで行かなかったのですが、この資料も次回の会議で説明させていただければと思います。

そして、傍聴者の方にもお願いですけれども、本日の資料は回収いたしますので、資料を置いたままで退席をお願いいたします。

後日、本日の議事録と併せて、ホームページ上で資料も公開させていただきます。事務局からは以上となります。

北詰座長

本日はどうもありがとうございました。これにて閉会させていただきたいと思います。

閉会 午後5時10分